

クマシ都市圏総合開発計画プロジェクト 開発計画調査型技術協力(2011年12月～2013年9月)

ガーナ第二の都市で、約191万人が居住するクマシ市は、農業や農産物加工業、木材、鉱物資源等の集積地として地域経済を支えるとともに、周辺の内陸国であるブルキナファソやマリ、ニジェールへつながる国際物流網の経由地として重要な機能を果たしています。ところが、近年、周辺都市を含むクマシ都市圏では、急速に人口が増加したため、中心市街地での交通渋滞が著しく、市街地がほぼ無計画に拡大してしまい、公共サービスが行き届かないなど、都市環境が悪化しつつあります。増加する人口に道路ネットワーク、上下水道システム、廃棄物処理等の都市インフラの整備が追いつかないのです。

問題は、同地域に市レベルより一段階上の地域レベルでの行政的枠組みや広域の都市計画が存在しないことです。クマシ都市圏には、ガーナおよび地域全体の物流の要衝として持続的な成長と開発を目指す上で、必要な、中長期的かつ包括的な戦略計画が求められていました。

このような状況を受け、日本は、都市計画、交通、上下水道、電力、経済開発等、幅広い分野の専門家16名を派遣し、社会開発と経済開発との調和のとれたクマシ都市圏整備、総合都市開発マスタープランの策定と、技術移転を通じた環境・科学・技術省都市計画局の計画推進能力の向上を支援しました。



2013年6月、開発計画の内容を国のハイレベルの要人にまで説明するために開催した国家ハイレベル会合の様子(写真: JICA)